千葉大学医学部附属病院で薬剤血中濃度検査を受けた患者の皆様、ご家族の皆様へ

２０２６年１０月８日
薬剤部

薬剤部では、薬物濃度測定に関する研究を行っており、以下に示す方の試料や診療情報等を、本文書の公開日以降に利用させていただきます。研究内容の詳細を知りたい方、研究に試料・情報を利用して欲しくない方は、末尾の相談窓口にご連絡ください。

本文書の対象となる方
２０２６年2月１日～２０３１年３月３１日の間に受診された方

１．研究課題名

「分離分析法を用いた薬物濃度測定法構築に関する研究」

２．研究期間

２０２６年承認日～２０３１年3月３１日

この研究は、千葉大学医学部附属病院観察研究倫理審査委員会の承認を受け、病院長の許可を受けて実施するものです。

３．研究の目的・方法

私たちは、病院でよく使われるお薬について、血液や髄液、尿の中の濃度を簡単・正確に測る方法を整え、より安全で効果的な治療につなげることを目指しています。また、難しい装置や特別な技術がなくても、現場で素早く測れる体制づくりを目的としています。通常の診療でされた血液や髄液、尿など（検査で使った後に余った部分）と、カルテに記録された年齢・性別・検査値・お薬の種類や量・飲み方（投与方法）などを使います。この研究では、新しく採血したり、追加の検査をお願いしたりすることはありません。

個人がわかる情報（お名前、カルテ番号、生年月日など）は病院内で削除し、研究用の番号（研究 ID）に置き換えてから解析します。また、共同研究機関である株式会社日立ハイテク、株式会社日立ハイテクアナリシスより貸出される分析装置を使い、薬物濃度の解析を行います。この解析結果を株式会社日立ハイテク、株式会社日立ハイテクア

ナリシスと共有します。解析結果には氏名等の個人を識別できる情報はありません。新しい測定法が、現在の方法（これまでの測定法）とどのくらい一致しているか、どれだけ早く・簡単に・同じ結果が得られるかなどを確かめます。

日本よりも個人情報やプライバシー等に関する法律や規制が十分でない国・地域の法律や規制は、個人情報保護委員会から公表されています。
（ https://www.ppc.go.jp/personalinfo/legal/kaiseihogohou/#gaikoku ）

４．研究に用いる試料・情報の種類

※研究に用いる具体的な試料・情報の種類、取得方法を一般の方にわかる用語で記載してください。

ふだんの診療で行われた検査の余った血液、髄液、尿（のこりの部分）から、1 検体あたり少量（目安：数百マイクロリットル）を研究用に使います。新しく採血をお願いすることはありません。また、診療録に記載されている身長、体重、病歴、血液検査値、お薬の情報などを確認させていただきます。

５．研究組織（試料・情報を利用する者の範囲）

【研究機関名及び本学の研究責任者名】

研究代表機関名	研究代表者
千葉大学医学部附属病院	薬剤部　教授・薬剤部長 石井 伊都子
共同研究機関名	研究責任者
株式会社日立ハイテク	プロジェクトマネジメント部長 青木　太我
株式会社日立ハイテクアナリシス	開発設計本部長　蓮村　聡

６．個人情報の取り扱いについて

本研究で得られた試料・情報は、氏名等の個人を特定するような情報を削除し、どなたのものかわからないように加工して、千葉大学大学院薬学研究院において厳重に管理します。研究結果を学術雑誌や学会で発表することがありますが、個人が特定されない形で行われます。

本研究についてご希望があれば、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で、研究計画書及び研究の方法に関する資料を入手又は閲覧する事ができますので、相談窓口までお申し出ください。個人情報の開示に係る手続きの詳細

については、千葉大学のホームページをご参照ください。

（URL：http://www.chiba-u.ac.jp/general/disclosure/security/privacy.html）

７．研究に関する相談窓口について

研究に試料・情報を利用して欲しくない場合には、研究対象とせず、原則として研究結果の発表前であれば情報の削除などの対応をしますので、下記の窓口までお申し出ください。試料・情報の利用をご了承いただけない場合でも不利益が生じる事はありません。

その他本研究に関するご質問、ご相談等は、下記の窓口にご遠慮なくお申し出ください。

相談窓口
〒２６０－８６７７
千葉県千葉市中央区亥鼻１－８－１
千葉大学医学部附属病院（病院長：大鳥 精司）
千葉大学大学院薬学研究院　教授　山崎伸吾
０４３（２２２）７１７１　内線 7770